

ことばときこえ

〒198-0036 青梅市河辺町 5-24
青梅市立河辺小学校
校長 関谷 望
ことばときこえの教室
TEL 0428-22-2103(直通)
発行月: 令和5年12月

今年もありがとうございました

今年も残り1カ月を切りました。2学期は色々な行事があり、通級指導の中でも話題に挙がることが多くありました。行事と向き合う気持ちを表現したり、行事の内容や結果を話したりする様子からも、心理面や言語面での成長を見取ることができました。通級での様子だけでなく、家庭や学校など様々な場面の様子を踏まえながら、今後も成長を後押ししていきたいと思えます。

これから冬休みを迎え、保護者の方が子供たちと一緒に過ごす時間が増えるかと思えます。ぜひ、通級での学習の様子や今後の目標など改めて話題にする時間を作っていただければ幸いです。通級でも、3学期のスタートに、改めて現在の課題や目標を確認し、年度末にこの1年の成果を振り返って、次年度につなげられるような指導をしていきます。

今年も通級へのご理解・ご協力をいただきありがとうございました。保護者の皆様、在籍学級の先生方には感謝申し上げます。皆様のご配慮のおかげで、子供たちが安心して通級し、力を育むことができています。来年も変わらず、よろしく願いいたします。お体に気を付けて、良い年末年始をお過ごしください。

3学期の予定

1月	10日(水)	3学期指導開始
	22日(月)	振替休業日
	24日(水)	小教研(PM指導中止)
	25日(木)	第一小学校研究発表(PM指導中止)
2月	7日(水)	4枠 吃音グループA(第6回)
	14日(水)	4枠 吃音グループB(第6回)
	21日(水)	4枠 きこえグループ(第6回)
3月	6日(水)	3学期指導終了

*急遽予定が変更になる可能性があります。ご理解・ご協力をお願いいたします。

詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.city.ome.tokyo.jp/school/kabe-e/>



【難聴理解授業】

ユニバーサルデザイン -誰もが気持ちよく過ごせる世の中-

11月21日（火）に、河辺小学校の4年生を対象に難聴理解授業を行いました。この授業は、難聴に関する学習を通して、校内児童の通級に対する認知度や理解を深めることもねらいとしています。我々教員としては理解が深まることにより、通級に通っている児童も、そうでない児童も、みんなが気持ちよく過ごせる学校になってほしいという願いがあります。その願いがより伝わるように、昨年度からは「ユニバーサルデザイン」という大きなテーマを掲げて、難聴理解授業を行っています。

授業は2時間続きで行いました。まず1時間目は、難聴や補聴器について学ぶことで、難聴のある人だけでなく、誰にでも困り感や苦手な事があること、困難と向き合うために様々な工夫をしていることを学習しました。2時間目は、困っている本人の工夫だけでなく、周囲にいる人たちがその困り感に気づき、それぞれが自分にできることを工夫することで困り感が軽減しより過ごしやすいことを確認しました。

授業後の感想では、「誰にでも苦手なことがあることが分かって安心した。」「困っている人がいたら、自分にできる手助けをしたい。」などの意見が挙がりました。このような考えが広まることで、誰もが気持ちよく過ごせる世の中になってほしいと願っています。

【保護者学習会】

発達障害に学ぶ ～ほめ方・叱り方・ことばかけ～

11月25日（土）に保護者学習会として、実践女子大学の塩川宏郷先生をお招きして講演会を実施しました。先生は大学で教鞭をとるかたわら、小児科医として発達障害に関する診察をされています。当日は、発達障害のある児童への支援の知識を基に、障害のない子にとっても有効な子育てのコツをお話いただきました。

子どもに対するかかわり方や言葉かけの基本姿勢として、先生から、「臨機応変」「試行錯誤」「ネバーギブアップ」の3つのキーワードをいただきました。

「臨機応変」は、本来声を掛けたり注意したりしたくなる場面でも、行動が悪化することが予測される場合は、無理に対応しないこと、一歩引いて冷静になることが重要ということです。

「試行錯誤」は、一般的に良いと言われていることでもその子にとってうまくいかないことは何度やってもうまくいかない。うまくいったことだけを継続して、成功できる場面を増やしていけるようにしたいというお話しでした。

「ネバーギブアップ」は、『失敗』はかかわり方を再度考えることができるチャンスであり、かかわる側の柔軟性や創造性を生かす場面であると、逆転の捉え方に気付かせていただきました。

最後には、子どもの行動にはストーリーがあり、その背景を読み取ることが良いかかわりの第一歩であるという言葉でお話を締めいただきました。子どもの立場に立ち、子どもの背景に思いを巡らせながら、より良いかかわりが心がけたいと改めて思われる時間となりました。